

明日は、小学校と中学校の入学式である。令和5年度が実質的にスタートする。学校は、子どもたちがいないとはじまらない。子どもたちと先生方との新たな出会いの日である。お互いにワクワク感、ドキドキ感をもっているだろう。素敵なことである。

先生方は、職員室からそれぞれの教室などへ向かう。戦闘開始である。職員室がベース基地であり、居場所である。その職員室にも担任の先生がいる。教頭先生である。常に学校全体を見渡し、子どもたちはもちろんのこと、先生方一人一人に気を配り、膨大な量の仕事をこなし、保護者対応だけでなく外部対応の窓口にもなる。1日に教頭先生が処理するメールの数が、その忙しさを物語っている。教員の働き方改革は少しずつ進んでいる。だが、大変申し訳ないが、教頭先生に限っては全くと言っていいほど進んではいない。逆に、コロナ対応などにより多忙化がさらに進んでしまった。

私の場合だが、最初は小学校の校長になった。その次は、高等学校の校長になった。そして、今は中学校の校長である。その間、幸か不幸か、毎年教頭先生が替わっていった。どの教頭先生も1年のおつき合いだった。ところが、今年度の教頭先生は、2年目のおつき合いとなる。私にとっては未知のことである。

今年度も、知り合いの何人かが、新たに教頭先生となった。毎日、必死であろう。あまりのめまぐるしさに疲れを感じる暇もないはずである。ある方からラインをいただいた。「自信ないです・・・」そうであろう。やったことがないことに自信など必要ない。教員の自信は、ときに過信となる。自信がありすぎると、子どもに寄り添えないし、先生方一人一人の立場になって考えることもできない。

「精一杯やっている姿を職員や保護者に見てもらって頑張るしかない。慣れていないし、わからないことが多いのだから。忙しいのは当たり前だが、人を育てるのが仕事だということを常に頭に置いてください。そして、誠意ある対応を第一に。誠意とは時間です。スピードです。遅いと打つ手がなくなります。それから、4月と5月は、自信なさそうな態度や言動を出さないこと。はったりで堂々と。わからないことは、その場でうやむやにせず、確認してから答えるなど、明快な態度を取れば大丈夫。ポイントは、語尾です。言い切る姿勢で。会議や打合せの進行などもそうです。あなたの活躍が楽しみです。期待しています」

こう返した。謙虚・誠実・実行・寛容・感謝をモットーに新任教頭として、新しい学校に赴任した自分のことを思い返した。この5つは、今でも大切だと思っている。職員室の担任と言われても、自分の仕事に追われて、先生方を見る余裕はないかもしれない。だが、パソコンの前に張り付いているようでは、人を育てる教頭にはなれない。どんなに忙しくても、先生方が自分の目の前に来たら、とりあえず立つ。そうすれば、キーボードから手が離れ、話を聞くようになる。ただし、データは上書き保存してからのほうがよい。私はこれで何度か失敗をした。何事も最初が肝心である。早速、実践し、習慣づけしたほうがよい。

明日は入学式である。開式の言葉と閉式の言葉が、教頭先生の出番となる。ゆっくり歩き、一つ一つの動作もゆっくりである。そして、張りのある声で、ゆっくりと話すことである。せかせかしているのはよくない。会場中が注目している。見られていることを楽しむぐらいでいい。ミスなくできるのは当たり前である。できれば、「今度の教頭先生は、頼もしそうだ」という印象ぐらいは残したい。

それぞれの学校に、職員室の担任の先生がいる。どうか、健康に気を配りながら、子どもたちのために、先生方のために、生き生きとがんばってほしい。担任の先生が元気で生き生きとしていないようでは、その学級は心配である。それは、職員室も同じである。健闘を祈る。